

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKU

2020.11 No.106

(諫早市：国指定重要文化財 眼鏡橋)

トピックス

- 特別展
「津山市友好交流都市出雲市・諫早市三市 交流展」を開催しました
- ミニ企画展
「世界の布」ーインドネシアの紺ー
「ミニミニお正月展 一子から丑へー」を開催します
- 第120回 文化財めぐりを開催
- 学芸員実習生を受け入れました
- 小学生の見学説明・体験学習

資料紹介

- 植月正紀の絵画の世界 小郷 利幸

西谷墳墓群 2号墓

展示室 →

（碑群）→

北側出口 →



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(出雲市：国指定史跡 西谷墳墓群)

特別展「津山市友好交流都市出雲市・ 諫早市三市交流展」を開催しました

令和2年度特別展「津山市友好交流都市出雲市・諫早市三市交流展」を開催しました。広域市町村圏の中核都市として、当時類似点の多かった津山市、出雲市、諫早市との間で、友好を深めともに発展することを目的に、昭和56年、三市の間で友好交流都市提携が結ばれました。今回は3都市間の友好・交流をいっそう深めるため、各市の歴史・文化を紹介する展覧会でした。

また、関連のイベントとして、記念講演会を開催し、出雲市からは出雲弥生の森博物館館長花谷浩氏、諫早市からは諫早市美術・歴史館専門員大島大輔氏をお招きし、両市の歴史についてお話いただきました。そして、講演終了後には両氏による展示解説会も開催しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数をしばっての開催となり、残念でしたが、参加者の方々は両市の歴史に興味深く聞き入っておられました。

令和2年度特別展津山市友好交流都市

出雲市・諫早市 三市交流展

出雲市

諫早市

令和2年10月24日(土) ▶ 11月29日(日)

会場 / 津山郷土博物館 3階展示室
 開館時間 / 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
 休館日 / 月曜・祝日の翌日・その他

津山郷土博物館
 Tsuyama City Museum
 〒708-0022 岡山県津山市山下92 TEL (0868) 22-4567
 H.P http://www.tsu-haku.jp
 Mail tsu-haku@tvf.ne.jp

記念講演会 日時 / 11月1日(日) 午後1時30分～

●会場 津山郷土博物館3階展示室(大ホール) (津山郷土博物館要覧)

●講演 講演1: 午後1時30分～午後2時30分 講師: 出雲弥生の森博物館 館長 花谷 浩氏
 演題: 出雲の魅力-それを歴史から探る

講演2: 午後2時45分～午後3時45分 講師: 諫早市美術・歴史館 専門員 大島 大輔氏
 演題: 花江津諫早開港と長崎開港

●定員 約50名 参加無料です。当日お越しください。



花谷氏による展示解説



大島氏による展示解説

津山郷土博物館ミニ企画展 「世界の布I —インドネシアの^{かすり}絣—」を開催します

【日時】

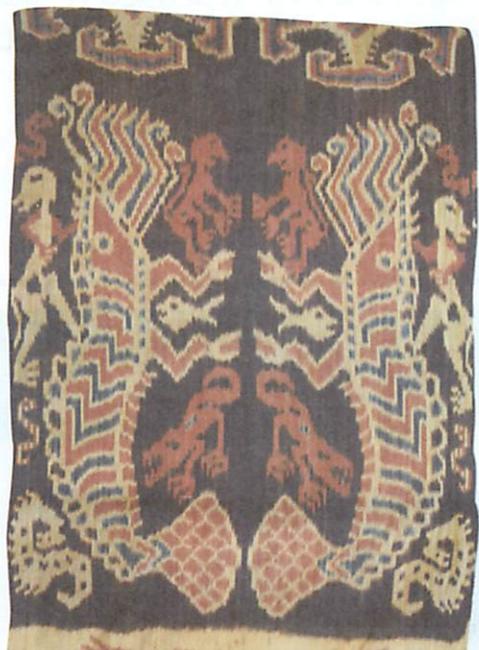
令和2年12月12日(土)～令和3年2月14日(日)

【会場】

津山郷土博物館 3階 展示室の一部

インドネシアは10,000以上の島々からなり、200以上の民族によって構成されています。その多彩な文化は布にも現れています。インドネシアの布は世界で人気があり、インドネシア語で「ろうけつ染」という意味がある「バティック」と、同じくインドネシア語で「括る」という意味のある「イカット」はそれぞれ世界共有の専門用語となっています。

今回は多彩なインドネシアの布のなかから、主にスンバ島の絣（イカット）を中心に展示します。



同時開催「ミニミニお正月展 —^ね子から^{うし}丑へ—」

令和2年の干支、^ね子と令和3年の干支、^{うし}丑にちなみ、ねずみや牛に関する作品を展示します。その他にもお正月に関する資料などを展示し、博物館の新年をおめでたい雰囲気でお迎えします。



飯塚竹斎「大根鼠図」



『美作孝民記』

第120回 文化財めぐりを開催

新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度3月14日に予定していた文化財めぐりを中止、今年度も例年であれば5月に行う文化財めぐりを中止していました。

約1年ぶりの開催となった11月14日は、午前中で終わるようにコースを設定し、勝部周辺を散策しました。

晴天に恵まれ、紅葉も美しく、参加者の皆様と久しぶりの文化財めぐりを楽しむことができました。



学芸員実習生を受け入れました



8月18日～23日の期間、大学生2名を受け入れ、博物館実習を行いました。3階の特別展が終了し常設展示に戻すタイミングと重なったので、資料をどのように配置すればよりわかりやすいかなど、一緒に考えながら3階常設展示をつくりました。その他にも、キャプションの文章を作成し展示するなど、実習生がしっかりと自分達で考え実践することができ、博物館としても充実した実習となりました。

小学生の見学説明・体験学習

この秋は、新型コロナウイルスのため修学旅行が中止となった学校がありました。その代替案として当館へ見学に来て下さる学校もあり、例年よりも多くの小学生が来てくれました。時間にゆとりがある学校は、体験学習も行いました。このような状況ですが、少しでも良い思い出としてのこればありがたいです。



植月正紀の絵画の世界

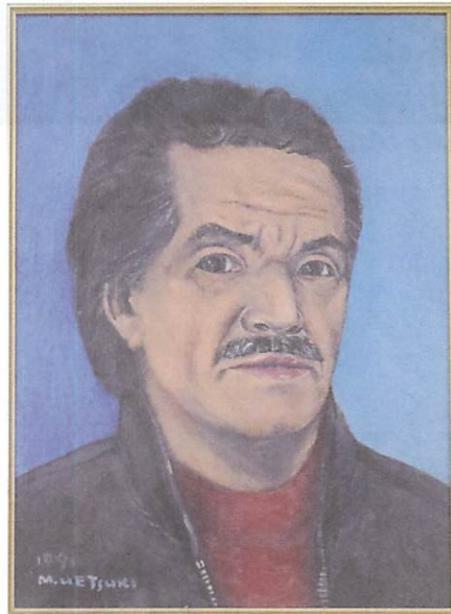
小郷 利幸

はじめに

植月正紀(一九三七〜二〇一八、写真①)は、津山市出身の画家で、平成三〇(二〇一八)年にお亡くなりになり、令和二(二〇二〇)年に遺作展が開催されました。遺作展を契機に奥様から絵画の寄贈のお話があり、油彩など七十七件四七六点の資料をいただきました。今回生前のお話を聴く機会もあり、いただいた絵画などについて少しでも紹介できればと思います。

彼は幼い頃から絵が好きだったようで、蠟石で道路に絵を描いて近所の人が上手だと褒めてくれるのが嬉しくて、毎日絵を描きそして今日まで絵を描き続けていると自身の『画集』の序文に書いています。

中学卒業後、独学で絵を学び、上京して特許に必要な図面の作成などの仕事をしながら、中央画壇に作品を出品し、一九五八年から六〇年まで春陽会展に入選、六四年から六九年まで国展に六年連続入選されています。その後も国展入選、国展新人賞を受賞され、その功績により七三年からは国展の審査員となり、永きにわたり審査員を



写真① 54歳の自画像(1991年)

務められました。絵画教室や東京や津山で個展の開催など、お亡くなりになる直前まで精力的に絵を描かれていたようで、未完の絵画も展示されていました。また、フランス、スペインなど海外でも賞をいただくなど活躍されています。

作品から見る画風の変遷

油彩を中心に水彩など幅広く描かれておられますが、特に特徴的な油彩の抽象画を

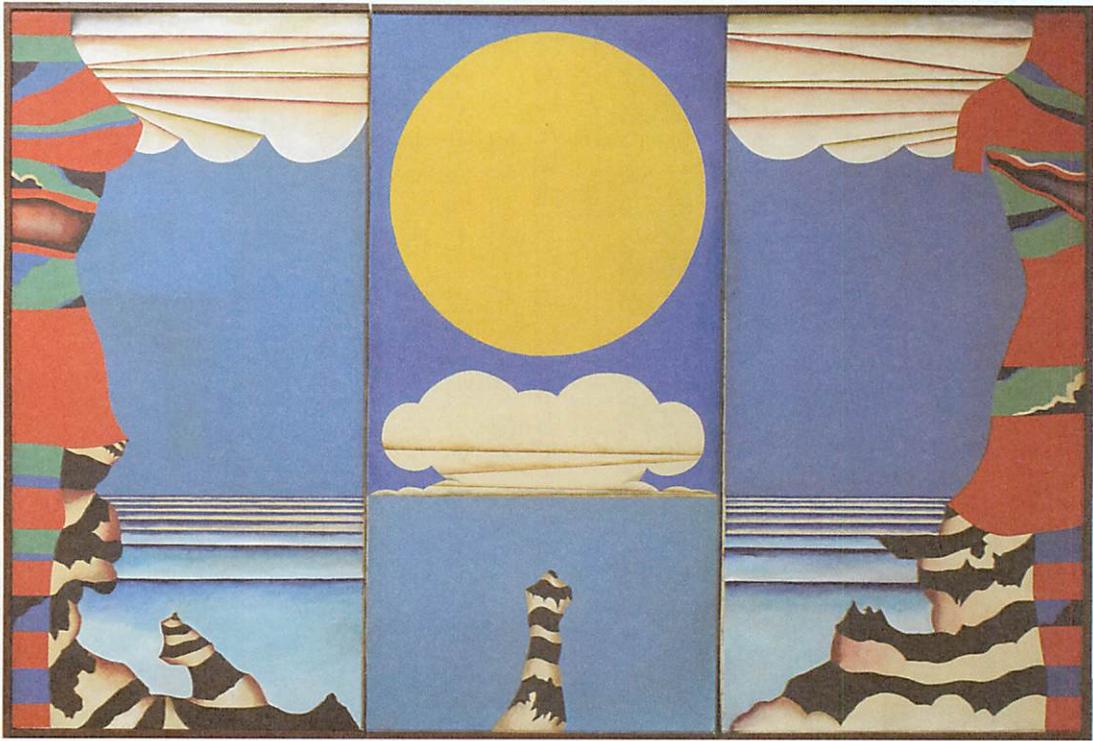
中心に年代ごとにみていきます。

◆(一)油彩・水彩・版画

◆一九五〇年代から七〇年代

五〇から六〇年代の初期の作品の抽象画は群衆の苦しみなどをモチーフにし、都会のエネルギーをとりいれ荒々しく表現したものが多く、この時期の作品は遺作展では展示されてはいませんでしたので、画集からのみ知ることができません。七〇年以降になると赤・黄色などを基調にしたさらに抽象的な表現となり、その代表作が国展の新人賞受賞作「海と空と雲との対話」(写真②)で三枚にわたる大作です。その後は人物をシルエットで表現し、背景はそのエネルギーをひも状のものが絡み合ったもので表現するなど独特な画風となり(写真③)、さらにその背景が樹木へと変化し(写真④)、後の樹木シリーズへと続くようです。

風景画では五六年の「船団」(写真⑤)など初期の作品もありますが、多くが九〇年代以降に描かれているものが多いようです。



写真② 海と空と雲との対話 (1970年)

◆八〇年代から二〇一八年

薄明かりや満月を背景にした葉の無い樹木を遠近法で表現し、樹木の幹をアップで力強さを表現したものもあり、樹木は生命の尊さ、強さを表したものでシリーズものとして数多く描かれています(写真⑥⑦)。その後、おびただしい魚などをリアルに表現したり、一見してこれまとは違う新たに取り組まれた独特の構図と思われる作品もあります(写真⑧)。このことから最後まで精力的に絵画製作に取り組まれていることがわかります。

風景画では九〇年代以降、津山市出身でもあるので、美作地域の風景(写真⑨～⑪)、特に鶴山公園(写真⑫)の絵を多く残しています。写真⑪⑫は未完の作品とのことですが、⑫は十年前に描かれた同じ構図の作品もあります。また、ヨーロッパの港町や街並みなどもこの時期に色鮮やかに描かれています(写真⑬)。風景画のなかには写真⑩のような水彩画もあり、この

ほか、花(写真⑭)や果物など静物を描いたものもあります。

(二)スケッチブックほか関連資料

油彩などの作品以外にスケッチブックなどの関連資料も多数いただくことができました。スケッチブックには人物の裸婦や風景などのデッサンがあったり、各地の風景や静物などが描かれているものもあり、作品以外にも制作過程を知る貴重な資料も多く含まれていると思われます。

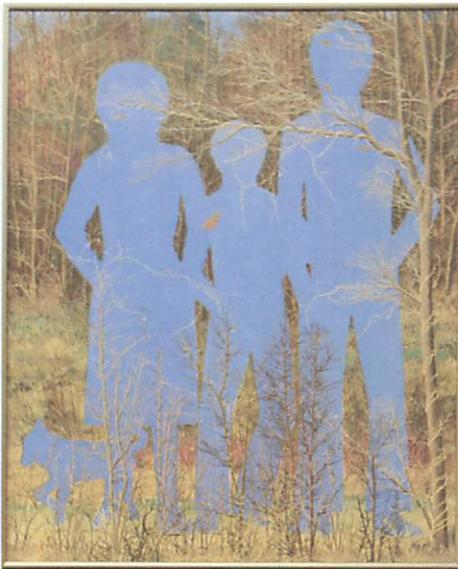
おわりに

今回の資料紹介から、油彩以外に水彩、版画と幅広い制作活動の一端が伺え、とても興味深いです。紹介できたのは、いただいた資料の一部のみですので、今後は関連資料も含め、展示などをおして絵画制作の一端も紹介できればと考えています。

(参考文献)

『植月正紀画集』二〇一四年

『植月正紀遺作展目録』二〇二〇年



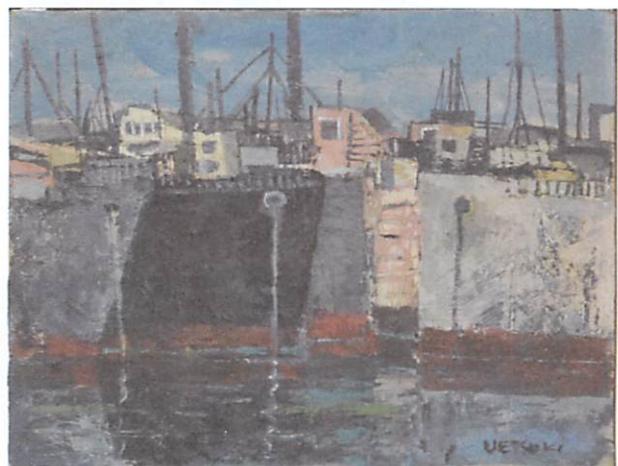
写真④ 空白の思い出 (1979年)



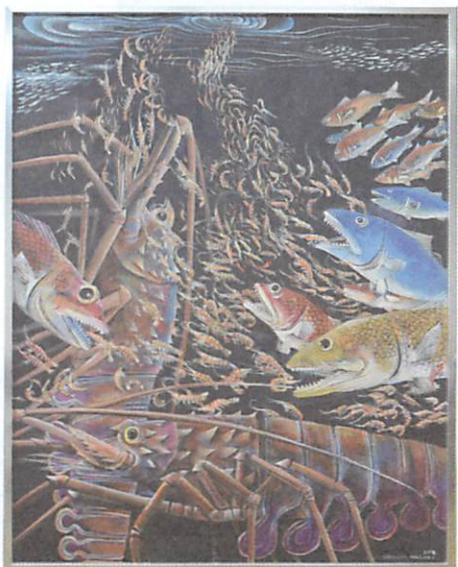
写真③ ダンス (1975年)



写真⑥ 木々との対話 (版画リトグラフ 1987年)



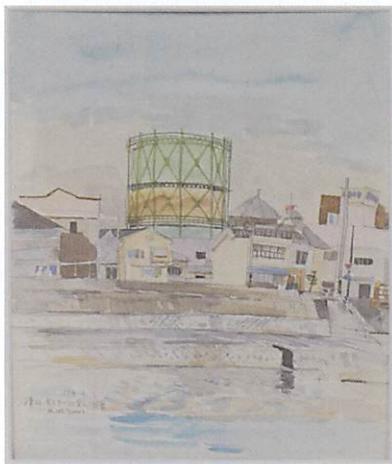
写真⑤ 船団 (1956年)



写真⑧ 海の中の物語 (2017年)



写真⑦ 樹木 2001 A



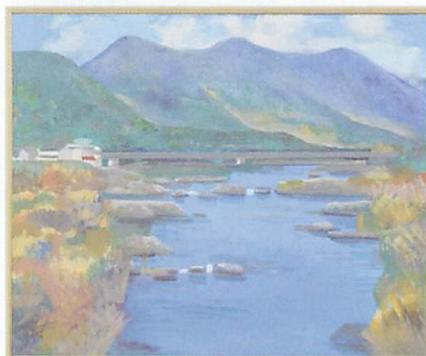
写真⑩ ガスタンク (2009年)



写真⑨ 吹屋町 (1993年)



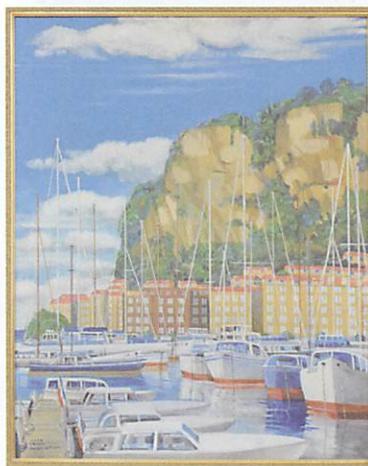
写真⑫ 鶴山公園桜満開 (2018年)



写真⑪ 兼田橋から那岐山を望む (2018年)



写真⑭ 白いポタン (1993年)



写真⑬ ヨットハーバー (南フランス) (2015年)



博物館だより「つはく」
No.106 令和2年11月30日



〔編集・発行〕 津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

〔印刷〕 有限会社 弘文社

入館のご案内

- 〔開館時間〕 午前9:00～午後5:00
- 〔休館日〕 毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12月29日～1月3日)・その他
- 〔入館料〕 一般…300円(30人以上の団体の場合240円)
高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)
65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

♣は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。